

## 湯ノ原採集記

馬場武彦

「湯ノ原」についてはもう紹介する必要はないでしょう。そう、あの Büsenberg et Strand の大著「Japanisch Spinnen」に yunohamensis としてその名を残す佐賀県の湯ノ原です。福岡県に住みながらこのクモのメッカを横目でにらんでいる手はないと、私と大熊千代子氏は、yellow pan trap による湯ノ原採集を計画したのであります。

(yellow pan trap については Heptathela 第2号を御覧下さい)

5月某日、2人を乗せた白いブルーバードは初夏の日差しを浴びながら、福岡を後にしました。(さっそうと初心者マークを付けながら……) 福岡市街から約1時間半、そこはクモの楽園「湯ノ原」……となるはずでしたが、いつの間にか佐賀の街、あわてて引き返し、初心者マーク氏と方向オンチ女史は苦勞の末にやっと湯ノ原に……。そこは、熱帯の樹々が生い茂り、色とりどりの珍しいクモが戯れ……というわけではなく、ごく平凡な田舎でした。しかし平凡な田舎とは言え、ここは湯ノ原であり、湯ノ原であること自体に意義があるのです。そう思えば風景もどことなくヒカっているではありませんか/眼を閉じれば Dönitz が歩いているところが浮かんで来るのです。トラップを2ヶ所(ともに針葉樹林)に仕掛け、採集もそこそこに帰路についたのですが、草原にも仕掛けた方がいいと大熊女史が主張するので、適地を捜すことにしたのですが、大熊女史の説に従って道を選べば選ぶほど、細い道に入りこみ、バックもままならず、自慢の新車が傷つき泣きたい思いでした。教訓——クモの事に関しては決して間違えることのない大熊女史も道に関してはあてにならないこと。それでもなんとか福岡に帰りつき、すばらしい成果を期待するのではありませんが……。

さて1週間後、再び道に迷いながら湯ノ原にたどりついた2人を待っていたトラップは——ああ、無残/虫ばかりでクモ≡0、1週間分の疲れがどっと押し寄せるのでありま

した。しかし無残な結果にもめげず、以後毎週のように湯ノ原に出かけて今日に到っています。雨に降られたり、カンカン照りに悩まされたりで成果の少なかった日も多かったですけれど、ちりも積もれば山となる、かなりのクモを得ることができました。やはりワシグモ科、コサラグモ科には yellow pan trap は相当有力で、かなり面白い結果を得られそうです。詳しい結果については Heptathela 第 3 号を御覧下さい(?)。九州在住の方は 1 度行かれてみることをお勧めします。福岡から車で 1 時間半、佐賀からなら 1 時間弱。熊本からでも高速経由で 2 時間半で着くと思います。(もちろん道を間違えなかった場合)九州在住でない方は福岡県に引越して来て下さい。歓迎します。九州クモの会でも採集会を行ないたいと思っていますが、どうでしょうか?

さて余談ですが……、「湯ノ原」と聞いてまず連想することは?——クモ、Dönitz、Japanisch Spinnen、etc…しかし、なぜか私は(たぶん大熊女史も)「流しそうめん」を連想するのです。採集の後、必ず食べることにしているので、「湯ノ原=流しそうめん」という Dönitz が聞いたら嘆くような貧しい発想が浮かんでくるのです。1 人前 350 円、ますの塩焼きが 500 円です。これから暑くなる季節には最適です。是非、採集の後には流しそうめんを食べましょう。特に遠方の方は、湯ノ原を訪れる代わりに流しそうめんを食べましょう。湯ノ原を訪れた気分になれること請け合いです。(?)

夏バテに苦しみながら、とりとめのないデタラメな文章を書いてしまいました。学術的な文章を期待された方々には慎んでお詫び申し上げます。このようなつまらない記事を読まれたくない方は、会誌、会報にどしどし投稿して下さいますようお願いいたします。

### 九州クモの会会長吉倉 眞先生「熊日賞」受賞される

去る 6 月 30 日、九州クモの会会長吉倉眞先生は永年のクモの研究と自然保護運動推進に活躍されました功績を称え、熊本日日新聞社より「熊日賞」を受賞されました。

贈呈式は、午前 11 時から熊日本社ホールで行われ、熊日社長より、感謝状、楯、副賞が贈られました。

この「熊日賞」は、学術、文化、スポーツなどの各分野で、永年にわたって活躍し、地域の発展に尽くした人たちに、熊日新聞社が県民に代わって贈る賞です。

わたくしたち九州クモの会会員一同にとって喜ばしいことです。

吉倉先生のご挨拶の内容をかかげます(熊日記事より)。

「クモの研究を始めて二十数年になりますが、今ではクモを探がすのが困難になりました。このままでいいのかと考えさせられます。今後とも自然保護に尽力したいと思っております。

## 九州クモの会交換雑誌と目次紹介 (1979年7月現在)

### Heteropoda (新潟県蜘蛛研究同好会)

#### 創刊号 (1977)

新潟県蜘蛛研究同好会誌発刊にあたって、水沢正明；新潟県内の盲蛛類について、長谷川昭夫；佐渡郡赤泊村の真正蜘蛛類、内田善；谷小自然園におけるクモ、山本寿男；新潟県の真正クモ類について一第3報一(新潟県蜘蛛目録追加について)、水沢正明；蜘蛛採集法を考える、巻高校生物部クモ研究班；新潟県の真生クモ類に関する文献、水沢正明。

#### 2号 (1978)

ザトウ虫あれこれ、長谷川昭夫；秋田海岸に分布するクモ、福島彬人；新潟県の真生クモについて一第4報一、水沢正明；小学生とクモ、山本寿男；新潟県の真正クモ類新記録、工藤泰則；新潟県の追加種について、水沢正明。

#### 3号 (1979)

ジグモを飼育してみた、山本寿男；採集ノート、内田善；新潟県のザトウムシについて、長谷川昭夫；新潟県のクモの生態について(その1)、水沢正明；新潟県クモ目録について、水沢正明。

### KISHIDAIA (東京蜘蛛談話会)

#### NO.42 (1977)

東京蜘蛛談話会誕生より10年を迎えて、萱嶋泉；東京蜘蛛談話会創立10周年にあ

たつて、松本誠治； 明治時代の日本のクモ、小野展嗣； ビジョオニグモの死・その後、佐藤幸子； クモの生態 2 題、中平 清； クサグモの同居グモ、石山鉄幸； クモ（12 種）の産卵回数、松本誠治； 北緯 50 度線上報告、小野展嗣； 高山不動というところ、田中理恵； ハエトリグモの分類（Ⅳ）、松本誠治； 都会のクモ Ⅰ、新海栄一； 飛鳥・粟島のクモ、吉田 哉； 山梨県山中湖村旭ヶ丘のクモ、熊田憲一； コホラヒメグモと卵のう、高橋米夫； 「ひぶかし」追録、小野展嗣； クモの産卵回数について、鈴木勝浩； 三宅島にいたオガタグモ、鈴木勝浩； イソコモリグモとイシカリコモリグモ、高野・新海・熊田；（東京蜘蛛談話会観察会報告）伊豆半島の真正クモ類、新海栄一。

#### NO.43（1978）

台湾クモ類採集旅行、吉田 哉； ビジョオニグモのフ化に接して、佐藤幸子； クモ標本観察のための一用材、松本誠治； アズチグモの食餌、小野展嗣； 石垣島で採集したサヤヒメグモ、吉田哉； イマダテテングヌカグモの採集記録、熊田憲一； アシナガグモ科 2 種の卵のうを確認、鈴木勝浩； クモ学会 1977 年 10 大ニュース、運営委員会選；（観察会報告 1977 年夏～1978 年春）八王子城跡のクモ（Ⅰ）、新海・田中・栗原・高橋。

#### NO.44（1979）

クモの住居拡大、中平 清； 長生きをしたクロガケジグモ、田中穂積； コサラグモ 2 種について、佐藤幸子； 北緯 50 度線上報告（2）、小野展嗣； 研究雑記帳（1）、鈴木恵一； 道北紀行、熊田憲一； 北海道北部のクモ、熊田憲一； 未受精卵を食べるクモ、鈴木勝浩； 野帳から、蓮沼克己。

#### しのびぐも（三重クモ談話会）

##### 第 1 号（1973）

「しのびぐも」発刊によせて、太田定浩； クモを使った二、三の実験、水谷慶治； いろいろな棲息場所における真正クモ群集、貝発憲治；

##### 第 2 号（1974）

伊勢神宮の珍蜘蛛キノボリトタテグモとキシノウエトタテグモについて、孫 福正； ア  
リグモ等の擬態について、松本誠治； 蜘蛛あれこれ、水谷慶治； HHK番組制作に協  
力して、橋本理市； 三重県南部地方の真正蜘蛛類、貝発憲治

### 第3号（1975）

クモ外雌器に見られる付着物について、松本誠治； 三重県下のキシノウエトタテグモ・  
キノボリトタテグモ及びワスレナグモの分布について、孫 福正； 南島町における真正  
クモ類目録（第一報）、南島高校生物クラブ； 東亜蜘蛛学会第7回大会を津市で開催し  
て、太田定浩

### 第4号（1976）

日本の稀産ハエトリグモについて、松本誠治； 三重県下のトゲオオザトウムシの産地、  
孫 福正； 東海地方のクモ相瞥見、門脇千浪・本庄四郎； 津市およびその周辺のクモ  
相、貝発憲治。

### 第5号（1977）

分類学研究におけるカードシステムの利用、松本誠治； ミズグモ騒動、貝発憲治； み  
んなの科学「網をはらないクモ」の製作に参加して、橋本理市； テリイソウロウグモ・  
スズミグモを獲り、貝発憲治； 鈴鹿山系北部の真正蜘蛛類（1）、橋本理市・貝発憲  
治・太田定浩； 単眼欠如のクモ、貝発憲治。



この他、東亜蜘蛛学会より、Acta Arach. Vol. XXVIII、№1の御寄贈を受けていま  
すが、表題に欧文が多いので印刷の都合上割愛しました。



上記論文について御要請があればコピーをいたします。（コピー代+送料を申し受けま  
す） または直接著者に申し込んで別刷をもらわれても良いかと思ひます。

## 会 計 報 告

1978年度決算（1978年4月1日より1979年3月31日まで）

摘 要	収 入	支 出	残 高	備 考
会 費	116,000			
カ ン バ	27,350			
前年度繰越し	50,100		193,450	
会誌印刷費		65,000		Heptathela 1号
会報印刷費		20,800		3、4、5号
同上送料		10,210		
ゼロックス代		420		21枚分
はがき代		960		投票用48枚
封 筒		450		小100枚 大100枚
翌年度へ繰越し		95,610	0	

1979年度予算

摘 要	収 入	支 出	残 高	備 考
会 費	110,000			2,000円×55人
前年度繰越し	95,610		205,610	
会誌印刷費		70,000		Heptathela 2号
会報印刷費		21,000		3回
同上送料		20,000		
翌年度へ繰越し		94,610	0	

（責任者 大熊千代子）

おそくなりましたが、1979年度の会費は前年度と同額の2,000円（高校生以下は1,000円）に決まりました。御納金をお願いいたします。

事 務 局 だ よ り

会報 6 号をお届けします。

皆様にはお変わりございませんか、春先、この夏こそは九州クモの会の採集会を行ないたいと思っておりましたのに、(少々の試案はあったのですが) 具体化しないうちに早くも盛夏を迎えてしまいました。事務局の手廻しの悪さをお詫びすると共に、会員の皆様方が、各地で良い夏を過ごし、良い成果をあげられますように祈ります。

間もなく Heptathela 2 号が発行されます。寄稿者は 1 号と殆んど同じだったようです。来夏の 3 号には是非多くの方々が投稿して下さい、今からよろしく願います。

本年度の予算案で、会報の予算は 3 回分とりましたが、本当は 4~5 回位、出したいのです。どうか気軽に原稿をお寄せ下さい。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

1 9 7 9 年 度 会 費 受 領 (敬称略)

馬場武彦、市場利哉、浜田竜一、菊屋奈良義、野田和之、中島英男、大塚龍也、小澤賢樹、山口鉄男。

九州クモの会会報 第6号

発行日 1979年8月10日

編集者 大熊千代子・馬場武彦

発行者 吉 倉 真

印刷所 ふじよし印刷





会 計 報 告

1979年度決算(1979年4月1日より1980年3月31日まで)

摘 要	収 入	支 出	残 高	備 考
会 費	99,000			
前年度繰越し	95,610		194,610	
会誌印刷費		72,000		Heptathela 2号
会報印刷費		10,800		6号
通 信 費		14,830		
封 筒		600		角4 60枚
雑 費		730		ポスト代など
翌年度へ繰越し		95,650	0	

1980年度予算

摘 要	収 入	支 出	残 高	備 考
会 費	110,000			
前年度繰越し	95,650		205,650	
会誌印刷費		80,000		Heptathela 3号
会報印刷費		20,000		2回
通 信 費		15,000		
雑 費		1,000		
翌年度へ繰越し		89,650		

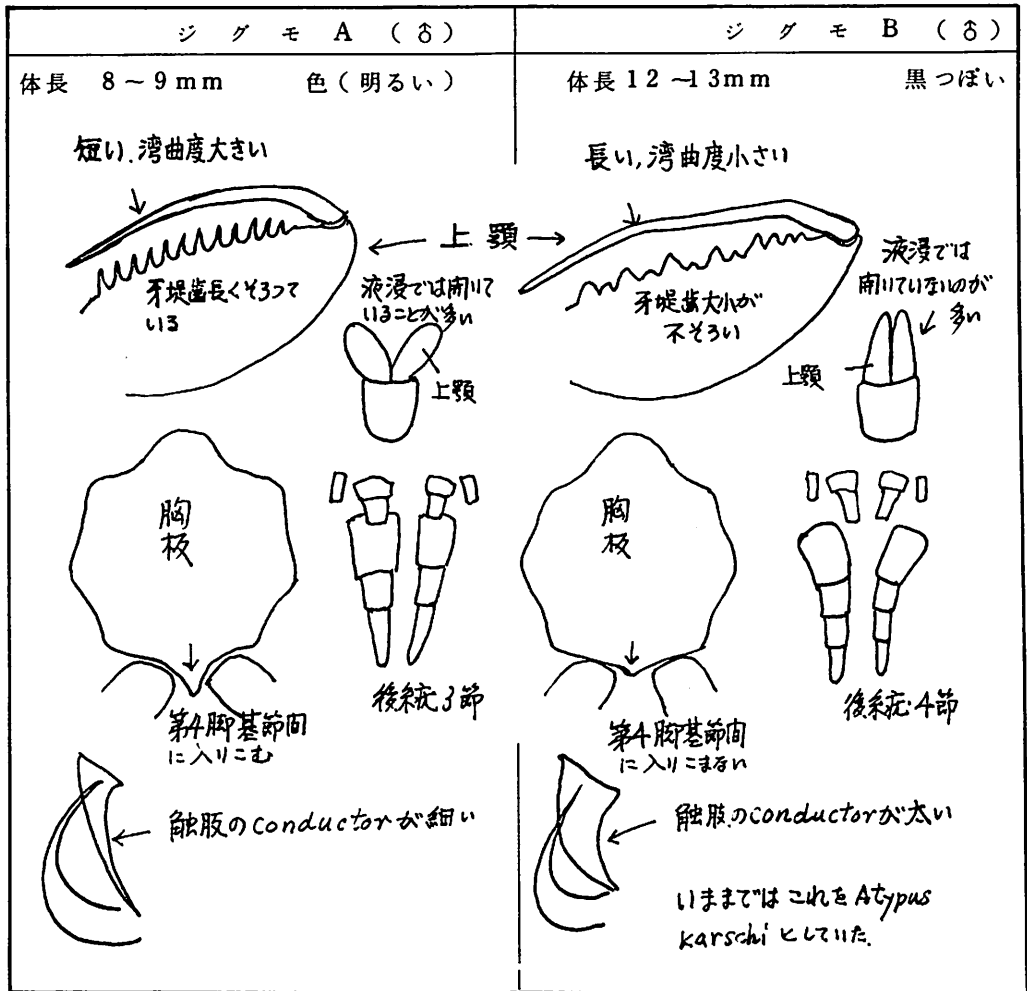
(責任者 大熊千代子)

WANTED (第3回指名手配)

本当のジグモやーい

(担当 八木沼健夫・西川喜朗)

全国にふつうに分布するジグモはすべて *Atypus karshi* とされて来たが、最近あちこちで別のジグモがあらわれ出した。このジグモがにせ者なのか、今までのジグモがにせ者でほんものになりすましていたのか。いま一度皆様のご協力により正体をはつきりさせたいと思う。下の略図を参考に九州の各地にどちらがいるかを知らせていただきたい。キムラグモやコモリグモのあとをうけて「ジグモよお前もか」というところ。*Atypus karshi* の原産地はわかっていない(多分九州?)。Aに当る♀は見えていない。



九州クモの会交換雑誌と目次紹介  
(1980年5月1日現在)

Atypus No. 75(1979)

沖縄のキムラグモ新種として発表される。八木沼健夫；日本のクモの新記録—トゲナガアシナガグモ—, 大熊千代子；青森県産の数種の蜘蛛について, 斉藤博・高橋光夫・相良淳一；キノボリトタテグモの住居製作, 宮田清司；ハシリグモ飼育その後の状況(研究のまとめ), 中平清；みの虫のミノから採集されたクモ, 田中穂積・西田悦造；フアーブルとナガコガネグモ—千国安之輔氏の発表に因んで—, 八木沼健夫；ウススジハエトリの学名, 八木沼健夫, その他第11回東亜蜘蛛学会大会講演要旨が集録されています。

KISHIDAIA No. 45(1980)

佐藤さんのビジョオニグモに関する文章を読んで, 中平清；タテヤマサラグモ, 佐藤幸子；乾燥・収縮してしまつたクモの復元方法, 松本誠治；Note. クモグサ(1)—共食いについて—, 栗原輝代子；三浦半島の真正蜘蛛類, 態田憲一；台湾の網を張るコモリグモ, 吉田哉；飼育中のアンダカグモの産卵行動, 松浦祐司；卵のうから出たムシ, 蓮沼克己；観察会報告1977年春~1979年冬—巾着田のクモ—, 嶋田順一・田中理恵。

HEPTATHELA 3号の原稿募集

- ◎ 会誌投稿規定（会報5号，P・4参照）と会誌1，2号の内容を参考にさせていただき，気楽にご投稿ください。
- ◎ 3号も2，30ページのものにしたいと思つています。
- ◎ 原稿〆切 6月末日（厳守）
- ◎ 原稿の送り先

〒861-05 熊本県山鹿市小原

熊本県立教育センター・生物研究室

入江照雄 まで

昭和55年4月20日

九州クモの会事務局， 編集係

会費受領（敬称略）

1979年度

大熊千代子，立花章，西川喜朗，千国安之輔，村上成功，斉藤博，小野展嗣，熊田憲一，吉田哉，田中穂積，田中理想，見発憲治，国見裕久，甲守崇，新海栄一，松本誠治，野戸章，入江照雄，大塚勲，成合智美，吉田裕之，千木良芳範，岩本侑，石野田辰夫，下謝名松栄，神崎信夫，上原明，萱嶋泉，伊藤武司，吉田真，大野正男，木庭泰，田上重憲，松山紘一。

1980年度

西川喜朗，田上重憲，浜田竜一，松山紘一，中島英男。

1980年度会費2000円（高校生以下は1000円）、未納の方は御納金をお願いいたします。

事 務 局 だ よ り

会報7号の発行が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。第6号を8月に発行して以来、秋が過ぎ、冬が過ぎ、とうとう桜の花まで散ってしまいました。新緑の季節を迎え、事務局としても気分を一新して会務に取り組みたいと思っております。

気分一新といえば、気分を一新するまでもなく張り切つてクモに取り組みされている方がいます。大分の菊屋奈良義さんです。HEPTATHELA の Supplement を書かれ、HEPTATHELA の第3号にも投稿予定とのこと。事務局としても大いに刺激を感じています。

菊屋さんだけでなく、他の会員諸氏も熱心に各々の仕事に取り組みされていると思います。皆さんの近況を、ハガキでも結構ですから、お報せ下さい。会報で紹介したいと思っております。（ただし、「採用の方には記念品を差し上げます。」）という話は目下の所、ありません。

ともかくにも、クモ屋にとって、忙しいシーズンの開幕です。皆さんの健闘をお祈り申し上げます。（採集会の提案がある方は、事務局までお報せ下さい。今年こそは行いたいと思っております。）

（馬場 記）

九州クモの会会報 第7号

発行日	1980年5月15日
編集者	大熊千代子・馬場武彦
発行者	吉 倉 真
印刷所	福岡印刷センター

医学とクモ

馬場 武彦

私は九州大学で学ぶ医学生の一入ですので、今回はクモの名前のつく医学用語を、少し紹介してみたいと思います。医者及び医学生は一般にクモについて無知であり、脚の数も知らない人が大多数ですが、なぜか、クモの名前のつく述語は意外にあります。

○クモ膜下出血（subarachnoid hemorrhage）

最初は御存知、クモ膜下出血です。頭蓋骨の中には硬膜、クモ膜という膜が脳表面を覆っています。このクモ膜下腔に出血が及ぶ場合をクモ膜下出血と呼びます。40～60歳に多発しますので、該当者は注意下さい。

○クモ状血管拡張（vascular spider）

肝硬変などの病気の時に、血管が拡張して皮膚に浮き出てくることがあり、その形態がクモが脚を拡げた様子に似ているところから、こういう名前がついています。主にヘソの周囲に現われることが多く、メデューサの首とも呼ばれます。この患者が、腹の上に大きなクモをはわせているように見えることは、横溝正史の推理小説「トランプ台上の首」でも、謎を解くカギになっています。興味のある方は御一読を……。〔角川文庫「幽霊座」収録〕

○クモ状指（arachnodactyly）

Marfan 症候群に見られる細長い指のこと。

○spider-leg deformity

腎奇形の一つである、“囊胞腎”において見られる腎盂のX線写真像。

○クモの巣細胞（spider-web cell）

組織病理学的所見の一つで、粗大な脂肪空胞を多数有し、クモの網のように見える細胞。

○arachnidism

これは何でしょう……。日本語では“蜘蛛咬刺症”……。そう、クモに咬われることです。

## キムラグモ、TVに進出!!

去る12月2日、NHK教育テレビで、ジュニア文化シリーズ「クモは名ハンター」で、キムラグモが、何と全国ネットで紹介されました。御覧になられた方も多いと思われます。出演は九州クモの会の会長吉倉眞氏及び、最近、猛烈に活躍中の狂い咲き（失礼！）菊屋奈良義氏の御兩人でした。進化におけるキムラグモの位置付け、生活史などが一般の方にもよくわかるように解説されていましたし、キムラグモが住居を作る様子、エサを捕獲する様子など貴重なフィルムを混じえて、専門の方々にとっても興味深い番組であったのではないのでしょうか。これでキムラグモに対する認識が更に深まったことと思ひ、九州のクモ界の一員として非常に喜ばしい気持ちで一ぱいです。

吉倉、菊屋両氏の人柄も画面を通じてよく伝わってきたように思ひます。吉倉会長の博識、学問に対する熱意はもちろんのこと、誠実な人柄が、少ない言葉の中ににじみ出ていました。菊屋氏からは長年のキムラグモに対する情熱が、伝わってきましたし、気さくな人柄も画面を通じて感じられたことと思ひます。（大分の方言がほとんど出なかったのは残念ですが……。）

吉倉会長、菊屋さん、そしてキムラグモのこれからのますますの御活躍を期待しています。

（ 文 貴 馬 場 ）



## 会 費 受 領 (敬称略)

### ○ 1 9 8 0 年 度

八木沼健夫，小沢実樹，水沢正明，立花草，大塚勲，野戸章，岩木伉，菊屋奈良義，新海栄一，千国安之輔，木庭奏，成合智美，千木良芳範，吉田哉，熊田憲一，神崎信生，野田和之，林敏雄（新入会），大熊千代子，見発憲治，田中穂積，斉藤博，萱嶋泉，松本誠治，国見裕之，松浦裕司（新入会），甲守崇，入江照雄，吉田裕之，馬場武彦，下謝名松栄。

### ○ 1 9 8 1 年 度

菊屋奈良義，小沢実樹，馬場武彦，下謝名松栄，萱嶋泉。

### ○ 1 9 8 2 年 度

菊屋奈良義。

1981年度会費も現行通り、2,000円（高校生以下は1,000円）の予定です。お早めに御納金お願いします。

## 九州クモの会交換雑誌と目次紹介

(1980年12月22日現在)

### Atypus 第76 (1980)

大分県下のキムラグモの現況～その生息状況のまとめと検討(1)～, 菊屋奈良義; オキナワキムラグモ *Heptathela nishihirai*, 八木沼健夫; ナガコガネグモの異常卵のうと小さな実験, 中平清; シグモは2種いる, 八木沼健夫, 西川喜朗; 日本産海岸性多足類, 高野光男; 日本産真正蜘蛛目録 補遺(2), 八木沼健夫; 文献抄録, 小野展嗣

### Acta Arachnologica Vol. 29 第1 (1980)

A Revision of two Japanese spiders of the genus *Pirata* (Araneae: Lycosidae), TANAKA, Hozumi; A New *Typhlodromus* from Japan with Notes on Four other Species of Phytoseiid Mites, EHARA, Shozo and Keiko HAMACKA; A Revision of the Oribatid Mites of Japan (II. The Family Euphthiracaridae), AOKI, Jun-ichi; A Morphological Approach of the Tarsonemid Mite *Steneotarsonemus spiniki* SMILEY (Tarsonemidae) as a Rice Plant Pest, CHOW, Y. S., S. S. TZEAN, C. S. CHANG and C. H. WANG; アカサビザトウムシの間性, 鈴木正将

### しのびぐも 第6号 (1978)

干国先生とシノビグモ, 太田定浩; 鈴鹿山系北部の真正蜘蛛類(2), 橋本理市・貝発憲治・太田定浩; 私のクモ採集記録より, 貝発憲治。

### しのびぐも 第7号 (1979)

三重県下のクモ調査地についての Locality Code による検討, 松本誠治; NHK教育番組「みんなの科学」の製作に参加して, 貝発憲治; アカマツ人工林におけるクモ相, 貝発憲治

### 蜘蛛 14 (1980) (中部蜘蛛懇談会会報)

小観察三題, 永井均; クモ採集覚え書—その3—, 須賀英文; ミカンハダニについて, 安田誠; クモ1年生のたわごと, 田中幸一; クモの越冬, 須賀英文; クモ雑話—その1—, 須賀英文; くもまんだら—その6—蜘蛛学者でない学者を蜘蛛で知る—, 清水善夫。

事 務 局 だ よ り

会報8号の発行が、7号に続き、またまた遅れたことを深くお詫び申し上げます。事務局は原稿不足で困っています。本号はついに大熊、馬場以外の原稿が皆無です。投稿を重ねてお願いします。

先日、八木沼、西川両先生が来福されました。洞穴会議に御出席の為ですが、会議終了の後、皆でカニ鍋を食べながら蜘蛛の話に時のたつのを忘れました。

前回の事務局だよりで、紹介した大分の菊屋さん。最近、ますます御活躍中です。本業の方はどうされているか心配ですが、やや沈滞気味の九州クモの会にとってよい刺激剤になると思います。

新しい年を迎え、会員の皆様方より一層の御活躍を、事務局一同（たった二人ですが……）お祈りしています。

九州クモの会会報 第8号

発行日 1981年1月15日  
編集者 大熊千代子・馬場武彦  
発行者 吉 倉 真  
印刷所 ふじよし印刷

速 報

九州にもミズグモがいた

相次ぐミズグモの発見で、そろそろ珍しくなくなりかけて来た折、思いがけなくも九州でミズグモが発見され、人びとを驚かせている。ところは大分県九重町の東、野稻岳の南の小田の池附近の湿地（高層湿原）、タヌキモの藨間で♂の成体1頭と♀の幼体4頭が見つかった。ときは昭和56年5月4日、発見者は大阪のメンバー、土井伸治郎・桂孝次郎・梅原徹・衣笠弘道の4氏。桂の行くところ必ずミズグモありで、昆虫が専門なのにクモ学者以上の発見をしているのはオドロキ。目下飼育中で、すでに空気の部屋を作っているとのことである。ビッグニュースなのでお知らせする。

大分県北西の中津市の東、四日市付近にもミズグモがいるらしいことを聞いたが、確認はされていない。九州のメンメンたしかめて下さい。  
(八木沼健夫)

5月10日付読売新聞日曜日に大分の菊屋奈良義さんの記事が紹介されました。キムラグモの保護運動で、すっかり有名になった菊屋さんですが、まだお読みでない方の為に、菊屋さんの言葉を中心に要約を紹介します。

われら自然派

社長はクモの引っ越し屋さん      もう安心じゃけん

(前略) 菊屋さんは、茶色のコールテンの長そでシャツにベスト・ジーンズ姿。ゆっくり歩きながら、道沿いの赤土を握りしめては捨てている。小さく盛り上がった土があった。菊屋さんは突然地べたにどっかりと腰をおろした。「キムラ(グモ)がいちよるぞ。この上の奥に穴を掘ってな」  
(略)「フタの内側には、ちゃんと糸を張りめぐらして、丈夫に作ってあるけん。      さあ、引

っ越しやるけん」(略)害虫退治の社長の菊屋さんがこのキムラグモの「引っ越し」を始めたのは、十五年ほど前からだ。(略)「たった1センチの生き物いうても、うちの県が北限だし、ぜひ保護してやらなければと思ったけん」新聞やテレビで、巢のありそうな所が開発される、と知ると、すぐに車で飛び出す。(略)「53年だったけん。情報のキャッチが遅れてしまい、約300匹のキムラが死んでな。それから学校の建設予定地へとんで行った時は、もうブルドーザーでならしたあとで、とても残念で」(略)

戦後、大分師範学校時代のこと。担当の生物の先生からキムラグモのことを知り、その珍しさにひかれて探し始めた。(略)「六ミリほどのオスだったけん でっかく見えたわ」あまりのうれしさに、一時間ほど座り込んで見とれてしまった。

大分大学を卒業後、菊屋さんは警察官になった。非番になると、やはりキムラを追い続けた。37年、警察の仕事がいやになって、石油会社に勤めた。当時、ネズミによる事故が多く、菊屋さんは、ネズミ駆除の係りになったが、これからの商売はこれじゃ、と思って、脱サラを志した。46年から虫、ネズミの害の駆除会社を設立した。(略)菊屋さんは、妻の郁子さんと8人の従業員に仕事の方は任せっ放しだ。「新聞の切り抜きを手伝わされる従業員もいるんです。開発の情報を整理するためにね。で、社長は情報が入ると、すぐに山へ入っちゃうんです。休みの日などは、こちらは注文が多くて忙しいのに、主人はおにぎりを持って、ニコニコ出掛けるんです。みんな、あきらめて文句は言いません」と郁子さんは苦笑する。

試験管のキムラグモを乗せた前輪駆動車は、市営の上野丘墓地公園に向かった。引っ越し先だ。(略)市役者が菊屋さんの情熱にほだされて、一昨年暮れ、わざわざ約500平方メートルの特別保護区を設けてくれた。(略)「キムラ、こん中へ入っちゃえけ。もう安心じゃけん。いつまでも生きろや。たとえ息を引きとっても、ここは墓地公園じゃけん。」キムラはゆっくりと穴の中へ消えていった。

## HEPTATHELA 4号の原稿募集

- ◎ 会誌投稿規定（会報5号，P・4参照）と会誌1，2，3号の内容を参考にしてください，気楽にご投稿ください。
- ◎ 4号も2，30ページのものにしたいと思っています。
- ◎ 原稿メ切 7月10日
- ◎ 原稿の送り先

〒861-05 熊本県山鹿市小原  
熊本県立教育センター・生物研究室  
入江照雄 まで  
昭和56年6月1日  
九州クモの会事務局，編集係

## お詫びと訂正

<Heptathela Vol. 1, №3>

- ① 表紙裏 英文表題 上から4行目

誤 正

Carapace-With → Carapace-Width

- ② P. 2 記号

ア. イ. ウ. エ. オ. カ. → イ. ロ. ハ. ニ. ホ. ヘ.

<九州クモの会会報（第8号）>

クモ状血管腫 (Vascular Spider) は，静脈の怒張ではなく，毛細血管の拡張を表わすに用いる言葉でした。従ってCaput Medusae とは同義語ではありません。不勉強を反省して，ここにお詫びし訂正します。

馬場武彦

# 会 計 報 告

1980年度決算(1980年4月1日より1981年3月31日まで)

摘 要	収 入	支 出	残 高	備 考
会 費	96,000			
前年度繰越し	95,650		191,650	
会誌印刷費		6,000		Heptathela 3号
会報印刷費		2,180		7号, 8号
通 信 費		9,560		
封 筒		560		角3 52枚
雑 費		0		
翌年度へ繰越し			99,730	

1981年度予算

摘 要	収 入	支 出	残 高	備 考
会 費	100,000			
前年度繰越し	99,730		199,730	
会誌印刷費		8,000		Heptathela 4号
会報印刷費		2,000		2回
通 信 費		15,000		
雑 費		1,000		
翌年度へ繰越し			83,730	

(責任者 大熊千代子)

## 会 費 受 領 (敬称略)

- 1980年度 出来律子, 市場利哉
- 1981年度 田中穂積, 市場利哉, 林 敏雄, 干木良芳範, 浜田竜一
- 1982年度 石野田辰夫, 下謝名松栄
- 1983年度 石野田辰夫, 下謝名松栄

## 事務局だより

今年も、もう6月になり、また梅雨の季節がやってきました。会員諸氏は 雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ クモの採集・研究と大忙しだと思います。近況を事務局までお報せ下さい。お便り、お待ち申し上げています。

九州でもミスグモが見つかったというニュース、いかがだったでしょうか。事務局でも原稿を受け取って以来、久々の興奮がまださめやらぬ日々が続いています。場所が確認できたら観察会など開いてはいかがでしょうか。

しかし、このビックニュース、九州のクモ屋さんではなく、大阪より報告があったことは少々、残念な気がしないでもないです。これを刺激剤として、やや沈滞ムードの九州クモ界の活発な動きを期待しています。

沈滞ムードの九州クモ界といっても、あい変わらず菊屋さんの活躍だけはめざましいようです。テレビに、新聞に、最近はすっかり有名人になられた感があります。今回の新聞記事よりの要約いかがでしたでしょうか。菊屋さんの気さくな人柄がわかっていただけたと思います。

8月のクモ学会の大会は、今年は新潟で開催で、九州からは遠いですが、できるだけ多勢で参加して新潟の人々を驚かせましょう。それまで体調を崩さないように、研究に励みましょう。なお次号の発行は大会後の予定です。



九州クモの会会報 第9号

発行日 1981年6月1日

編集者 大熊千代子・馬場武彦

発行者 吉 倉 真

印刷所 ニチイプリントショップ

## 五木村採集行

甲 守 崇

九州クモの会の第1回採集会が8月15日（土）・16日（日）の両日熊本県球磨郡五木村で行なわれた。それに参加した一人として行程の一部を記してみた。15日15時、南熊本駅前に参加者全員集合（入江、大熊、木庭、甲守、中島、馬場）大熊、馬場両氏は福岡より車で、中島氏は大牟田から単車で遠路かけつける。簡単な自己紹介後車に分乗、出発、会員外熊本洞穴研究会のメンバーも同行、3号線を南に下る。盆の土曜日で車の混雑が心配されたが、意外に少なく快走、宮原を経て氷川に沿って走る。河合を通過、大通峠 向かう。17時峠に到着、峠の冷たい水で一息ついたあと入江氏より地図の配布があり、採集地の説明を受ける。出発後小鶴を経て飯干川に沿って白岩戸、飯干を通過、大滝で下車、川沿いの林内で採集、朽材の下で卵囊をつけたユウレイグモを採集（卵数35）、1時間程度で採集を終へ、再び小鶴を経て宿泊地、頭地へ向かう。宿の丸徳旅館についたのは19時近くであった。部屋から五木川の清流が眺望できる古びた旅館である。別館で食事、食後、会の運営、会計、採集会の件などについて懇談、翌16日は、朝食（8時）後直ちに出発、吐合の鐘乳洞近くで下車、採集にかかる。大熊氏がアカイロトリノフンダマンを発見、皆で観察、その他トゲグモ、オナガグモ、キラランロカネグモ、ソメワケトリノフンダマンなどを採集。入江氏の案内で吐合鐘乳洞に入る。30℃を越える外気に対して中は涼しく、冷気で汗もひっこみ寒さをおぼえるほどである。200m近くの奥行きがある鐘乳洞であるが50m近く入りこむ。ヒゴホラヒメグモを数頭観察。洞の近くでイオウイロハシリグモのまどいを写真に撮る。11時過ぎ吐合を出発、梶原の発電所を経て下梶原の国有林へ向かう。到着後古びたつり橋を渡り川岸で昼食をとる。大熊氏水辺でヨリメグモを発見、ヨリメグモは洞窟内で見られる場合が多く、入江氏によると県内では5ヶ所の洞窟内で観察されている。盆あとの日曜日にあたるため、車の混雑を予想して早目に採集を切り上げることにし現地で解散、帰路につく。大通峠に14時に到着、思ったより車も少なく順調に走行、熊本に16時に帰りつく。参加者も少なく時間的に余裕のない採集会であったが、有意義な会であったと考えている。

## 運 営 委 員 会 報 告

8月15日、五木村での第1回採集会の夕食時を利用して、運営委員会が開かれました。出席者は、木庭・甲守・入江・大熊・馬場（運営委員）及び大牟田の中島氏でした。吉倉会長からは「よろしく」と委任を受けました。役員改選・採集会・会計等について討議が行なわれ、以下の様に決定しました。

### ◎ 役 員 改 選

自由選挙が望ましいが、過去3年間の実績から見て、自由選挙はまだ現実的でなく、前回同様、運営委員会の推薦に対する信任投票を行なうことにする。信任投票に際して運営委員会は旧役員に加えて大分の菊屋奈良義氏を推薦する。また将来的には、自由選挙を目指すこととする。

### ◎ 採 集 会

毎年8月上旬に定期的開催し、各県持ち廻りとする。なお来年の採集会の開催地としては、九重（大分県）を候補地とする。

### ◎ 会 計

会費の未納者が多く、財政が厳しいので、とりあえず会費納入状況を会員に郵送し、未納者には会費の納入を求める。また、現在、会報に掲載している「会費受領」に代えて、会費未納者の氏名を載せることも考慮する。

この他、会報のあり方や、会誌の郵送方法についてなど、活発な話し合いが行なわれました。

## 役員改選告示

運営委員会での決定に従って、役員改選の告示を行ないます。選挙方法は前回同様信任投票ですので、同封のハガキで11月末日までに投票をお願いします。立候補者は以下の通りです。

会長	吉倉	真
役員	入江	照雄
	大熊	千代子
	木庭	奏
	馬場	武彦
	別府	義昭
	石野田	辰夫
	甲守	崇
	松山	紘一
	下謝名	松栄
	田上	重憲
	山口	鉄男（以上現役員・順不同）
	菊屋	奈良義

なお、55年度以前の会費未納の方には選挙権及び被選挙権はありませんので、御了承下さい。

また、九州クモの会の活動がもっと盛んになって、1日も早く自由選挙ができるように希望します。

### 会費受領

○1981年度	吉田	哉	中島	英男	甲守	崇
	木庭	奏	神崎	信生	大熊	千代子
	水沢	正明	貝	発憲治		
○1982年度	吉田	哉	小沢	実樹		

## 事務局だより

暑い夏が過ぎ、ジョロウグモの姿ばかりが目立つ季節になりました。会員諸氏はいかがお過ごしでしょうか。近況を事務局まで、是非御一報下さい。

さて、会報も号を重ねて、ついに第10号を迎えることになりました。記念特集などはありませんが、やはり10という数を聞くと、胸に感じる場所があります。これからはますますよろしくお願いします。

去る8月15～16日に熊本県の五木村で行なわれた第1回採集会の様子を、甲守崇氏にお願いして書いて頂きました。たいへん楽しい採集会でした。来年の採集会には多数の参加があるように期待しています。

### 九州クモの会会報 第10号

発行日 1981年9月20日

編集者 大熊千代子・馬場武彦

発行者 吉 倉 真

印刷所 ニチイプリントショップ

九州クモの会 振替 福岡37343